

令和元年10月27日(日) 10時～15時

参加者 11名 (評議員3名、監事1名、理事6名、事務局1名)

## 1. 行程

今回は今年度から助成対象事業となった「大蛇里山(白銀小学校区地域まちづくり協議会)」、「五反目谷津(畔田谷津の生命を見守る会)」及びゲンジボタルの生息地で希少種保護活動支援事業の対象としている上勝田タキヤツ(人と自然をつなぐ仲間・佐倉(仲間の会))の3か所を訪問した。

## 2. 訪問先の概要説明

\*「大蛇里山」：佐倉市が市営住宅建設用地を取得したが、建設計画の縮小によって生じた土地が荒れた山として放置されていた。この土地の活用について地域住民の公園や市民の憩いの場としての「里山」という声を受けて「里山づくり」が開始されたという経緯がある。

平成21年に作業に着手し、5年を経て「里山」を完成したが、この間伐採した樹木(殆どは杉)は約500本、竹は数千本になるとのこと。

伐採した樹木は遊歩道のガイドやテーブル・ベンチに加工・活用されています。

現在は約30名以上のメンバーが毎月2回整備作業に参加しておられるとのこと。

又、園内にはヤマユリ、キンランなどの希少植物が自生し、四季折々の自然を楽しむ憩いの場として親しまれています。

今年度の助成事業としては、遊歩道の階段の蹴込みが木製で腐食が進んでいることから、これを補修負荷の小さいプラスチック製のものに交換する事業の材料費に充当されてい



里山の概要説明を受けています



作業場の様子です



整備作業の際に掘出された道祖神

ます。(今年度事業分は95%完了しているとのことでした。)

\*上勝田タキヤツ：ゲンジボタルをある程度まとまって観察できるエリアは佐倉市内では極めて少なくなっている。



プラスチック化された階段の蹴込み



朽ちかけている蹴込み(逐次プラスチック化の予定)

タキヤツでは以前からボランティアによる生息数調査と希少種保護のための活動(草刈りなど)が行われていたが、辛うじて最低限の生息環境を維持するのが精いっぱい状態であった。

一昨年度から、一帯のぬかるみを解消するための水路整備と草刈りを行って一帯の日照を確保してカワナナの生息を進めるなどの作業について試験的に助成を行っていた。

その結果徐々にゲンジの生息数が増えてきたことから、今年度より希少種保護活動支援事業としてタキヤツのゲンジボタルを正式に登録したものである。

蛍の生息数については、年々アップダウンはあるが、直近では、一昨年 87、昨年 132、今年 180 と大幅に増えてきている。来年度以降も引き続き増加することを期待している。



タキヤツの入口



谷津内の風景



水路整備  
によって  
谷津内の  
ぬかるみ  
が改善さ  
れました。



**\*五反目谷津（仮称西部自然公園内）：**同地域の竹林にはクマガ

イソウの自生地があり、この保護のために竹林を整備する事業として助成を行っています。同一エリア内に群生するクマガイソウは同じDNAを持つ個体構成されるのが一般的であるが、五反目谷津では同一地域内で多様なDNAが混在して自生する学術的にも貴重なものとされています。クマガイソウの保全を行うためには、竹林を整備して適度な日照を確保するなどが必要であることから助成対象としたものである。

生命を見守る会に限らずフィールドワークを行っている全ての活動グループに共通の悩みである活動の担い手（ボランティア）の確保について、このエリアでのボランティア募集を佐倉市民カレッジ生に対して直接参加を呼び掛ける試みを行っている。

以上、駆け足での巡回となりましたが、今回は千葉県に大きな被害をもたらした集中豪雨の直後であり、交通規制による渋滞などあってスケジュールは遅れ気味とはなったが無事に終えることができました。

今回訪問した3か所では、それぞれにいろいろと難しい状況がある中で積極的に活動に取り組んでいただいていることを実感できました。



竹林の説明を受けています



竹林の様子



谷津の案内版があります

お忙しい中、現地での対応をしていただきました皆様に改めて御礼を申し上げます。

以上